



菊陽西小学校だより

第5号 R7.6.26

きらり★きくにし★

(出会い学び力・つながり考動力・自分磨き力)

文責 校長 佐藤 正貴

第1回学校運営協議会

6月13日（金）に1回目の学校運営協議会を実施しました。学校運営協議会は、学校の現状を考えながら、運営に必要な支援を協議や、保護者や地域の方々に教育活動への参画を促すことなど、学校・保護者・地域・行政が一体となって、児童の健全育成や学校運営の改善に取り組んでいく会です。会員の構成は、地域住民代表、青少年健全育成協議会代表、西小校区民生児童委員代表、西小PTA代表、学童クラブ代表、地域学校協働活動推進員学校職員で、合計13名となっております。会長職は地域代表の 田上 利昭 様に引き受けさせていただきました。

児童の育成は、学校だけで行うことはできません。家庭、地域と連携した取組が必要です。今回は、学校から本年度の学校教育目標、教育活動の方針、重点取組事項の説明を行いました。PTA、地域、行政のそれぞれの立場から意見を伺うとともに、皆様からの承認を頂くことができました。児童がこれから幸せに生きていくために、よりよい教育環境をつくりていきたいという思いは、協議会に参加された皆様の共通の思いであることを強く感じました。今後は、安心・安全に過ごすことができる学校にしていくために、取組の状況や児童の様子について、家庭・地域・行政と情報共有を図りながら教育活動を改善していきます。

プール開き（6年）



6月13日に6年生のプール開きが行われました。水の中は、日常生活の場面と大きく異なります。一番の違いは、水中では自由に呼吸ができないことです。当たり前のことができない事が、事故につながる原因でもあります。プールでの授業では、「泳げる=水の中を自分の意志で自由に動くことができる力」と位置付けながら、浮いたり潜ったり、4つの泳法を身に付けていきます。更に、プールでの授業で最も大切なことは、学びのルールを守るということです。プールでのルールは、命を守るルールです。この規範意識を醸成していくことが大きな目的でもあります。ルールの範疇で鼓動できる力をつけることが、プールでの学習を楽しむことにつながります。夏は体育の授業が成立しにくい季節でもあります。気温、湿度、雨天、雷など、私が子どもの頃とは、明らかに自然の様相が変わっています。また、人の生活スタイルも大きく変わっています。自然の状況、児童の様子をみながら、事故がないように適切に判断していきます。

学校だよりのタイトルについて

今年度の学校だよりのタイトルについて、とても悩んでいました。私が考えるタイトルは、とても堅苦しい感じがするものばかりでした。例えば、私は、学校は「自分の内面を磨く場所、互いに内面を磨き合い、高め合う場所」であるという思いを思っています。そのことをタイトルにするならば「切磋琢磨」というような感じになります。勿論、この四字熟語もよい言葉であるとは思いますが、何となく「あっ！これだ！」という感じがしませんでした。いくら考えても同じようにお堅いタイトルばかりになりました。あと数年で役職定年を迎えるのですが、生活経験が長いため、固定観念から脱却できなくなっていることを感じました。そこで、自分で考えてダメなら人に頼るということで、偶然近くにいた長谷川先生に、軽い気持ちで「考えて」とお願いしました。次の日、私の机上に1枚の紙が乗っていました。

帰りの会で紹介される「今日のきらりさん」では、「〇〇さんがスリッパを並べていました。」「〇〇さんが、昼休みに遊びに誘ってくれました。」「〇〇を頑張っていました。」などの温かい言葉と拍手でつつまれます。一人ひとりが「きらり」と光るものを持っていること、それを認め合って広げることが本当に素敵だと思います。自分の良さに気づいて、心から輝ける子ども達を育てたいです。私たちは、一人ひとりが輝ける場所をつくり、可能性をたくさん見つけて伸ばせるよう、寄り添っていきたいです。

「これだ！」と思いました。若い先生方の感覚、中堅の先生方のリーダーシップ、ベテランの先生方の経験がしっかりととかみ合うことが、子ども達一人ひとりを輝かせることになると思います。そんな思いを込めたタイトルです。